

今後のダンス公演のご案内

●KYOTO EXPERIMENT 2018年10月6日(土)～10月28日(日) チケット好評発売中

ジゼル・ヴィエンヌ/DACM『CROWD』10月6日(土)・7日(日)

21世紀のヨーロッパで若者たちが繰り広げているパーティーが舞台。1990年代前半におけるデトロイトのミュージシャンたちの音楽とともに、若者の群れの熱狂と欲望が無数の物語となって立ち現れる。

セシリア・ベンゴレア & フランソワ・シェニョー『DUB LOVE』10月18日(木)～20日(土)

ロレーヌ国立バレエ団トリプルビル『DEVOTED』振付、Dance New Air 2014では『TWERK』を上演したセシリア・ベンゴレア&フランソワ・シェニョーが再来日。ジャマイカ音楽に欠かせないサウンドシステムと強靱な身体でビートを刻む！

マレーネ・モンテイロ・フレイタス『バックスの信女浄化へのプレリュード』10月20日(土)・21日(日)

ギリシア悲劇『バックスの信女』をモチーフにしたダンス作品。グロテスクで俗っぽく、狂った世界は反転して神がかっているようにも見え、豊穡でイマジネーション溢れる世界に目が離せない！

手塚夏子/Floating Bottle『Floating Bottle Project vol.2 Dive into the point 点にダイブする』10月26日(金)～28日(日)

3人のアーティストが紐解く西洋近代化の歴史。西洋近代化によってもたらされた変化の中で生きる私たち。観客と共に共有し、実験するダンス作品。

●京響クロスオーバー「バレエ×オーケストラ」～ニューイヤー・ガラ～ 2019年1月6日(日) チケット好評発売中

中村恩恵、首藤康之、世界で活躍するダンサーたちと京都市交響楽団によって繰り上げられる華やかなバレエ×オーケストラのオリジナルステージ。

●笠井勲振付『高丘親王航海記』 2019年1月11日(金)・12日(土) 10月13日 チケット発売

澁澤龍彦の文学作品を笠井勲が舞踊作品として創作。黒田育世、近藤良平ら人気コンテンポラリーダンサーを迎えての世界初演。

●ニュー・ブランシュKYOTO 2018 ダンスショーイング「kankoroboo」2018年10月5日(金) 18:45 / 19:45 / 20:45

(各回20分間程度)*入場無料・予約不要

「ニュー・ブランシュ(白夜祭)」は、一夜限りの現代アートの祭典。ローム・スクエアでは、2人の才能ある日仏女性ダンサー、康本雅子とナッシュが約30名の参加者とともに創作したダンス作品を上演。

ロームシアター京都

舞台技術 || 滑川武、山田比呂夫、川村剛史、大西貴士、島村弘之、船越美紀、石田昌也、森本康志、宇田亮一、井上達也、西岡宣明、元木浩一

柴田順、米山博樹、大塚咲季、船戸卓、掛谷柚香、田村隆行、土肥昌史、西條智博、山川文彦、豊田英介

管理 || 宮崎刀史紀、前田祐児、関本明子、牧野大輔、丸井重樹、河本あずみ、安藤綾乃、桜井春那、鹿野哲広、久保田瞳、藤井敬史、西本弥生、立石裕子

制作 || 橋本裕介、小倉由佳子、長野夏織、松本花音、寺田貴美子、西村明子、日下部辰朗、国枝かつら、宮崎麻子

主催 || ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

助成 || 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) / 独立行政法人日本芸術文化振興会、

アンスティチュ・フランセ パリ本部、在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本



日仏交流160周年
160^e Anniversaire
des relations
franco-japonaises



ロームシアター京都 2018年度自主事業

ロームシアター京都
ROHM Theatre Kyoto

ロレーヌ国立バレエ団

トリプルビル DEVOTED / STEPTEXT / SOUND DANCE

2018年9月21日[金] 19:00開演 / 22日[土] 15:00開演

ロームシアター京都 サウスホール

BALLET

DE CENTRE
CHOREGRAPHIQUE
NATIONAL

LORRAINE

Direction Petter Jacobsson

ごあいさつ

本日はロームシアター京都2018年度自主事業「ロレーヌ国立バレエ団“トリプルビル”」にご来場いただき、誠にありがとうございます。今年度の我々の自主事業の考え方の一つに「レパトリー」というものがあります。繰り返し上演できる、ある種の財産としてのレパトリーを劇場が持つということはどういうことか、その方法と意義について、様々な事業を通じて考えていこうとしています。

さて、本日お目にかけるロレーヌ国立バレエ団は、舞踊振興のために1980年代からフランス全土に設置され始めた、国立振付センターという劇場であり教育機関でもある施設の一つにある専属バレエ団です。

今回上演するトリプルビルは、ポストモダンダンスの巨匠カニンガムの代表作『SOUNDNDANCE』、バレエ・ダンス界に革命をもたらした鬼才フォーサイスの初期の名作『STEPTEXT』、ダンス界のライジングスター・ベンゴレア&シェニョーへの委嘱作品『DEVOTED』と、1960年代からの舞踊史を俯瞰できる魅力的なプログラムを、多様な個性を持つダンサーたちによってお送りします。さらに『STEPTEXT』は1991年「ウィリアム・フォーサイスとフランクフルト・バレエ団 日本公演」として京都会館で上演された歴史を持ち、今回リニューアルオープンしたロームシアター京都に27年ぶりに再登場します。一つのバレエ団がこのようにレパトリーを保つことで、観客もまた歴史の果実を味わうことができるのです。

日仏交流160周年、京都・パリ友情盟約締結60周年という記念すべき年に、ここ京都でこのような公演を実施できることを、関係各位に感謝申し上げてご挨拶いたします。



メッセージ

今回、伝統を継承しながらも、ダンスの新たな方向性を模索する作品を、日本の皆さまにご覧頂けますこと大変光栄に思っています。日本での公演は、私がロレーヌ国立バレエ団の芸術監督に就任してから2回目となります。また、こうして皆さんとお目にかかれること、心から嬉しく思っております。



国立振付センター・ロレーヌバレエ団 Centre Chorégraphique National - Ballet de Lorraine

コンテンポラリー・バレエ作品を制作するダンス・カンパニー。2011年7月以来、ピーター・ヤコブソンが芸術監督として指揮をとる。26人のダンサーが所属し、20世紀後半から現代の前衛的な作品の上演に定評がある。現代を代表する著名な振付家とのコラボレーションを従え、ヨーロッパのコンテンポラリーバレエ界を牽引する。また、作品上演だけでなく、リサーチや実験の場として、多くの顔も持つ。様々な領域や分野が出会おうプラットフォームであり、今日のダンスに関する様々な思想やヴィジョンが交錯する場でもある。

『DEVOTED』

振付 | セシリア・ベンゴレア & フランソワ・シェニョー Cecilia Bengolea & François Chaignaud

音楽 | Philip Glass, Another Look at Harmony Part IV

『STEPTEXT』

振付 | ウィリアム・フォーサイス William Forsythe

音楽 | Johann Sebastian Bach – excerpts from the Partita No. 2 BWV 1004 in D minor, Chaconne

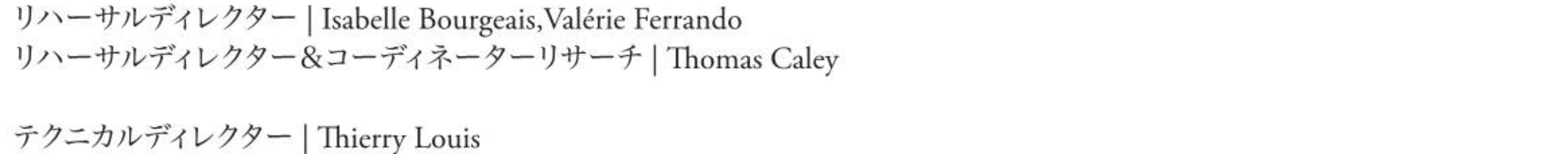
『SOUNDNDANCE』

振付 | マース・カニンガム Merce Cunningham

音楽 | David Tudor, (Untitled 1975/1994)

*来年2019年はマース・カニンガム生誕100年です。

これを記念して、マース・カニンガム財団では「Merce Cunningham Centennial(100年祭)」を開催しており、本公演の『SOUNDNDANCE』もその一つとして上演いたします。



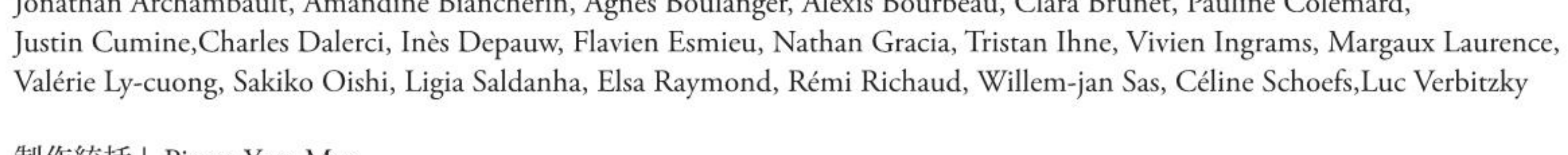
テクニカルディレクター | Thierry Louis

舞台監督 | Mirosław Gordon

照明 | Olivier Bauer

音響 | Laura Matéos

衣装 | Annabelle Propin



制作統括 | Pierre-Yves Mas



ロームシアター京都スタッフ

技術統括 || 滑川武

舞台 || 大西貴士(チーフ)、川村剛史、島村弘之、船越美紀、石田昌也、宇田亮一

照明 || 西岡宣明、柴田順、船戸卓

音響 || 土肥昌史、西條智博、豊田英介

プログラム・ディレクター || 橋本裕介

制作 || 小倉由佳子、寺田貴美子、国枝かつら、宮崎麻子

広報 || 長野夏織、松本花音